

2000年代レトロスペクティブ (回顧)

土屋 正人

Masato Tsuchiya

「〇〇年代レトロスペクティブ (回顧)」と題して、Vol.89 で 1980 年代、Vol.90 で 1990 年代、それぞれの 10 年間に熟読した本を紹介しました。

2000 年代に入って、早 18 年目。原書と翻訳が同時に出版されることもある現在、毎月多くのコンピュータ関連書籍が登場しています。選択の幅が広がる一方で、自分に合ったものを見つけるのが難しくなっているかもしれません。

電子書籍化されるものが増えていますが、2000 年代最初のディケイド (~2009 年) に熟読した本の中には、既に現在では入手しにくいものもあります。丁度この頃から、読みながら気付きをマインドマップでメモするようになりました。マインドマップであれば短時間でふりかえることができます。

今回はマインドマップを羅針盤にして、Vol.89、Vol.90 に倣い、2000 年代最初の 10 年間に出版された本の中から、今後も読み継がれて欲しいものを紹介します。

◆ アジャイルとの出会い

GSLetterNeo は、Vol.1 (2008 年 8 月) からアジャイルを取り上げています。その頃、すでに実践していたのですが、いつ頃からアジャイルに興味を持ったのか、記憶が曖昧です。しかしながら、アジャイルとの出会いは覚えています。XP でした。

- XP エクストリーム・プログラミング入門 Kent Beck 著 ピアソンエデュケーション、オーム社
XP のバイブル。薄い本だったので、原書で読みまし

た。しばらくして翻訳が出ましたが、当時としては異例の早さでした。第 2 版も出版、翻訳され、2015 年にはその新訳が出ました。ソフトウェアの本で、しかも 10 余年で新訳が出るというのは異例でしょう。読み継がれるべき本の証かもしれません。

◆ アジャイルの実践

XP に出会ったものの具体的にやることをイメージできず、モヤモヤした感じでした。当時は、プロセスやプラクティス、アクティビティ、ロール等が明確な RUP (ラショナル統一プロセス) 中心だったので、ギャップを感じたのかもしれません。それは、スクラムで解消されました。

- スクラム入門 Ken Schwaber 著 日経 BP ソフトプレス

今でこそ日本のアジャイルはスクラムが主流で、紙や PDF で良い参考書が入手できますが、2000 年代初めには希少でした。その中の一冊。

モヤモヤ感はなくなったものの、スクラムはプロセスフレームワークであるため、具体的に施行するとなると手探りでした。

そんな時、求めていたことにピタリと合う参考書に出会いました。薄さからは想像もできないほど密度が濃い、実践の書です。

- アジャイルレトロスペクティブズ Esther Derby, Diana Larsen 著 オーム社
- アジャイルプラクティス Venkat Subramaniam, Andy Hunt 著 オーム社

同じ頃に訳書が出た、アジャイルプラクティスのバイブル。特にレトロスペクティブ (ふりかえり) をいくつかのプロジェクトで実施し、次第にプラクティスをアレンジして使うようになりました。「守破離」の「離」…というのは言いすぎで、まだまだ道半ば。試行錯誤の過程で「ファシリテーション」の重要性を思い知りました。

反復開発は見積りが悩みどころ。ファンクションポイント法、ユースケースポイント法を使っていましたが、光明を見出したのは Mike Cohn の教えから。また、「リーン」からも多くの気づきを得ました。

- **アジャイルな見積りと計画づくり** Mike Cohn 著 **毎日コミュニケーションズ**

アジャイル開発の見積りを試行錯誤していた頃出会い、感銘しました。Mike のサイトからプランニングポーカーを1ダース購入して、プロジェクトで使ったり、配ったりしました。

- **リーンソフトウェア開発** メアリー・ポッペンディーク、トム・ポッペンディーク 著 **日経 BP 社**

- **リーン開発の本質** メアリー・ポッペンディーク、トム・ポッペンディーク 著 **日経 BP 社**

ともにリーンソフトウェア開発のバイブル。「7つの原則」と「22の思考ツール」が参考になりました。特に7つの原則のひとつ「ムダをなくす」が心に響きました。

以上が自分のアジャイル修得のメインストリームだったと思いますが、それ以外にも多くの良書と出会い、実践に活かすことができました。

◆ アジャイルの深耕

- **アート・オブ・アジャイルデベロップメント** James Shore, Shane Warden 著 **オライリージャパン**

Kent Beck の本が XP のコンセプトを説いているのに対して、こちらは XP 実践の書。XP だけではなく、アジャイル開発全般に適用・応用できるヒントが満載でした。

- **アジャイルモデリング** スコット・W・アンブラー 著 **翔泳社**

アジャイルとモデリングは相容れないという誤解がありますが、「顧客との協調」のためにはモデリングが重要です。重厚長大なモデリングのイメージを払拭し、コミュニ

ケーション手段としての活用法を示してくれました。

- **アジャイルソフトウェア開発の奥義 第2版** Robert C. Martin 著 **SBクリエイティブ**

アジャイルの百科事典。と同時に、オブジェクト指向設計原則やデザインパターンが、サンプルを使って簡潔明瞭に解説され、オブジェクト指向設計の教科書としても重宝しました。

- **実践アジャイルテスト** Janet Gregory, Lisa Crispin 著 **翔泳社**

テストの目的を明確にする「アジャイルテストの4象限」が印象的でした。アジャイル以外、ソフトウェア開発全般にも応用できる視点でテストが語られます。

- **Ship It!** Jared Richardson, William Gwaltney Jr. 著 **オーム社**

- **Manage It!** Johanna Rothman 著 **オーム社**

- **Release It!** Michael T. Nygard 著 **オーム社**

それぞれ、開発、マネジメント、デプロイの実践ノウハウの書。コンパクトにまとめられているので、知識や経験を整理するためのハンドブックとして最適でした。

これまでに挙げたものはすべて翻訳本ですが、2010年以降、日本でアジャイルを実践されている方たちの本が増えてきたのは嬉しいことです。日本の文化・習慣のもと、アジャイルをどのように実践していくか、より身近なヒントが得られ、参考になります。

名著はたくさんありますが、「2010年代レトロスペクティブ」を記す時(があれば)、紹介したいです。

◆ アジャイル以外

アジャイル以外の本を紹介できませんでしたが、この時期には、モデリング、パターン、アーキテクチャ、ファシリテーション、思考法など、多くの分野で名著に出会いました。稿を改めて紹介できればと思います。

夢を。

GSLetterNeo Vol. 106

2017年5月20日発行

発行者 ● 株式会社 SRA 先端技術研究所

編集者 ● 土屋正人

バックナンバーを公開しています ● <http://www.sra.co.jp/gsletter>

ご感想・お問い合わせはこちらへお願いします ● gsneo@sra.co.jp



株式会社SRA

〒171-8513 東京都豊島区南池袋 2-3-2-8

夢を。Yawaraka Innovation
やわらかいのバージョン